

第6次白鷹町総合計画 前期基本計画（素案）について

令和元年10月
白鷹町企画政策課

第6次白鷹町総合計画
基本構想のポイント
(H30策定)

第6次白鷹町総合計画基本構想のポイント①

序論

基本構想	令和2年度～令和11年度（10年間）
基本計画	前期：令和2年度～令和6年度（5年間）
	後期：令和7年度～令和11年度（5年間）

■ 計画期間

■ 町を取り巻く社会経済の流れ

項目	記載内容
急激な人口減少、少子高齢化の急速な進行	若者流出超過／集落機能の低下
グローバル化の進展と地域経済	グローバル化による地域経済への影響
安全・安心に対する意識の高まり	気候変動対応／公助、自助・共助
地球環境保全のための地域社会	CO ₂ 排出抑制／再エネへの関心の高まり
ICTの劇的な進化等技術革新の進展	ICTによる業務効率化／場所にとらわれない柔軟な働き方
ライフスタイルの多様化	若者を中心に田園回帰意識／働き方改革
コミュニティの弱体化、共助社会づくりにおける多様な主体の役割の拡大・多様化	少子高齢化による地域活動維持への懸念／多様な価値観や個人を重視する社会

■ まちの特徴とまちづくりの課題

項目	記載内容
自然・地理的環境	自然豊かな町／中央を流れる最上川／新荒砥橋により東西が継ぎ目なく融和／広域交通網／公共交通網の課題
伝統文化、地域資源	多くの歴史的文化財／後継者育成と交流
産業	自動車部品関連に伸び／高齢化・担い手不足／農業は少量多品種生産、紅花生産は県内トップ／林業の成長産業化
くらし、ひと・地域	共創のまちづくりの取組／アンケート結果から①空き家増加②共同作業が困難な地域③集落維持の取組が課題④これからも本町で暮らしたい意向が多／コミュニティセンターを核とした地域づくり
特色ある地域づくり活動	地域資源の継承／地域発の支え合う取組の出現／住民主体のボランティア活動／複合施設の完成⇒集い・交流の拠点

第1章 まちづくりの理念

「共創のまちづくり」

町民と行政がそれぞれの役割と責任の下で、相互の立場を尊重し、情報を共有しながら、対等な関係に立って協力していく協働の理念を踏まえ、多様な主体との連携により新たな価値を生み出し、創造、発展していくことをめざすもの



第2章 将来像

人、そして地域がつながり 輝き続ける 潤いのまち

知恵や技術、教育や文化など、脈々と地域に受け継がれてきた「歴史」は、先人の日々の営みの軌跡であり、人と地域とをつないできた恵みです。この受け継がれた遺産は、生き生きと働き生活する「人」や、豊かな「自然」と一体となって、未来へとひらかれた心豊かな「潤いのまち」を育ててきたものです。この心豊かな「潤い」を源流として、人と人、人と地域、そして地域と地域とが、交通インフラの整備や情報通信技術の発達により、地域内交流から国際交流まで多様な形でつながり、今までにない流れ、対流を生み出しています。この新たな対流を的確に捉え、地域外に住みながらこの地域に関わっていく関係人口の増加や、これまでになく広域的な市町村連携を促進しながら、町民一人一人が生き生きと活躍し輝く、未来につながるまちをめざします。

第6次白鷹町総合計画基本構想のポイント②

第3章 基本目標と施策の大綱

■まちづくりの理念と将来像に基づき、4つの基本目標を定め、施策を展開していきます。

まちづくりの目標	施策の大綱	基本施策
豊かな自然に包まれ、だれもが住みよく、安心・やすらぎを感じる「まち」づくり	<ol style="list-style-type: none"> 1. 豊富な資源の管理と有効活用 2. 持続可能な循環資源の利用 3. 安心して暮らせるまちづくり 4. 雪に強く住み続けられる環境づくり 	<ul style="list-style-type: none"> ・豊かな森林の保全／魅力ある農村・農地をつくる／適正な土地利用／快適で潤いのある水環境 ・再生可能エネルギー利用の推進／環境・景観の保全／廃棄物処理を推進／環境美化推進 ・安心して暮らせる医療体制／思いやりのある福祉環境、健康づくりの推進／心、情報、交通のバリアフリー／サイバーセキュリティ ・道路／居住環境・住宅整備／雪に強いまちづくり、防災、気候変動対応／既存建築ストックの有効活用
夢を持ち郷土を愛する「ひと」づくり	<ol style="list-style-type: none"> 1. 子育てしやすい環境づくり 2. 次世代の人材（財）育成 3. 文化・スポーツ等を核とした地域活性化 4. 新たな人の流れの形成 	<ul style="list-style-type: none"> ・子育て環境の充実・維持／安心して子どもを産み育てられる環境／白鷹の子どもを育成 ・地域・人を知る教育の推進／質の高い教育を推進／中等教育等の充実／次代の親育成 ・芸術文化、伝統芸能、スポーツ推進／生涯学習推進 ・U I Jターンを推進／交流推進／起業・就業支援／地方創生の推進
地域資源を活かし、魅力と活力にあふれる「しごと」づくり	<ol style="list-style-type: none"> 1. 白鷹らしい産業の振興 2. 生産性向上に向けた環境整備 3. 稼げる産業の振興 	<ul style="list-style-type: none"> ・農業（経営体の育成・確保、スマート農業の実現）／林業（成長産業化、新たな森林管理システムによる森林経営管理の集積・集約化）／商工業（事業承継、適切な新陳代謝の促進）／食×観光 ・安心できる労働環境／産業人材の育成／新たな産業の創出 ・若者が魅力を感じる産業づくり／豊かな資源を生かした特産品開発／6次産業化の推進
地域の個性を磨き、「連携する（つながる）」まちづくり	<p>※「まち」「ひと」「しごと」3側面をつなぐ取組</p>	

「基本計画」で基本施策に対する個別施策を具体化

第4章 基本構想の推進に向けて

1. 情報の共有と町民主体のまちづくり
2. 民間活力の活用と官民連携による新たな取組
3. 国、県、関係市町との連携

第6次白鷹町総合計画
前期基本計画（案）（R02～R06）
のポイント

主な個別施策について①（豊かな自然に包まれ、だれもが住みよく、安心・やすらぎを感じる「まち」づくり）

施策の大綱	基本施策	個別施策	アウトカム（成果指標）
1. 豊富な資源の管理と有効活用	豊かな森林の保全	森林・林業再生事業の推進（間伐、再造林支援等）、松くい虫、ナラ枯れ対策の推進	森林経営計画策定数の増(1件/年)
	魅力ある農村・農地をつくる	・農地の有する多面的機能の発揮の促進、土地改良事業による農地の大区画化や汎用化・畑地化を推進、中山間地域の収益力の強化、	日本型直接支払協定面積の維持（減少率10%以内）
	適正な土地利用	・土地利用計画（R03～R12）の策定、個別計画との総合調整（運用時・更新時）	「適正な土地利用」の満足度向上（26.4%⇒30.0%）
	快適で潤いある水環境	・水道：持続的経営の確保のため広域化の検討、配水管・配水池・ポンプ場等整備 ・下水道：持続的経営の確保のための統合推進、長寿命化計画の推進、公営企業の法適化推進	有収率の維持（93.9%⇒90%）
2. 持続可能な循環資源の利用	再生可能エネルギー利用の推進	・再生可能エネルギーの導入拡大・活用推進、省エネルギーの推進 ・地域の多様な課題に応える脱炭素型の地域づくりの推進	再エネ推進事業補助を利用した件数の増(14件/年⇒15件/年)
	環境・景観の保全	・不法投棄の防止対策、景観形成等の地域活動の支援	大規模不法投棄箇所数ゼロ維持
	廃棄物処理を推進	・環境基本計画及びごみ処理基本計画の推進、リデュース、リユースの推進、廃棄物等からの有用資源の回収促進、海洋プラスチックごみ対策の推進	ごみ処理量の減少（442g/1人1日⇒370g/1人1日）
	環境美化推進	・環境基本計画の推進、花いっぱい運動、道路・河川美化活動など、あらゆる世代の町民によるまちの美化・保全	花いっぱい運動植栽箇所数の増（46箇所⇒50箇所）
3. 安心して暮らせるまちづくり	安心して暮らせる医療体制	・5G、4K、8K等技術活用を見据えた遠隔診療の取り入れ等、機能強化の検討、医療体制確保（医師確保等）、山大医学部付属病院や公立置賜総合病院などとのICT活用を含めた連携強化	町立病院会計経常収支の黒字化（▲3,541千円⇒988千円）
	思いやりのある福祉環境	・介護予防・日常生活支援の総合的な実施、地域で支え合う支援体制・人材の確保、地域包括支援センターの運営、福祉型小さな拠点づくり、置賜成年後見センター設立に向けた取組 ・災害時に対応するためのネットワークの構築、災害時要配慮者台帳の活用	介護保険第1号被保険者の認定者数の維持・減少（18.4%⇒18.0%）
	健康づくりの推進	各健康診査の受診率向上に向けた取組の継続、地域の健康づくりのリーダーとなる人材の育成、若年層の健康づくりに資するイベント等の実施	3大生活習慣病で死亡者数割合の減少（37.9%⇒35.0%）
	心、情報、交通のバリアフリー	【障がい者】町、事業所、その他関係機関とのネットワーク体制の構築等 【交通】山形鉄道(株)フラワー長井線の利用拡大と維持存続、デマンド交通の広域利用の検討	「公共交通体系の充実」の町民満足度の増加（29.9%⇒35.0%）
	高度情報化の推進と情報セキュリティ	・白鷹町情報セキュリティポリシーの遵守、サイバーセキュリティの重要性の啓発	情報セキュリティ研修の受講率向上（93.8%⇒100.0%）
4. 雪に強く住み続けられる環境づくり	道路交通網の整備	・道路改良、橋梁・舗装長寿命化修繕、西廻り幹線道路、(仮称)山形PAスマートICの整備促進	橋梁健全度率向上(86.5%⇒100.0%)
	居住環境・住宅整備	・住宅整備基本構想に基づいた住宅施策の推進、定住の意志を持つ若者や移住者に対する支援、町営住宅等長寿命化計画に基づく計画的な維持・改修、空き家の利活用（リフォーム工事等）に対する支援、都市計画道路荒砥駅館の内線の整備、都市公園中丸公園の整備、中丸ため池の廃止	「住みよい居住環境」の満足度向上（16.7%⇒20.0%）
	雪に強いまちづくり	・地域の取組(除排雪)への支援検討、高齢者向け越冬型住宅の検討、きめ細かな除雪体制	
	防災、気候変動対応	地域防災力の充実強化、防火水槽の有蓋化の推進、防災行政無線の更新、学校等公共施設等の耐震化などの防災・避難所機能強化、近年の気候変動の影響を踏まえた防災・減災対策の推進	自主防災組織の維持（組織率100%⇒100%）
	既存ストックの有効活用	・白鷹町空家等対策計画に沿った利活用、適正管理、除却推進、空き家バンクによる空き家等の有効活用、宅地斡旋の検討、空家対策ネットワーク協議会と連携した移住希望者とのマッチング	空き家バンク活用数の維持（13件/年⇒15件/年）

主な個別施策について②（夢を持ち郷土を愛する「ひと」づくり）

施策の大綱	基本施策	個別施策	アウトカム（成果指標）
1. 子育てしやすい環境づくり	子育て環境の充実・維持	<ul style="list-style-type: none"> ・延長保育や一時預かり事業、子育て支援センターやファミリー・サポート・センターの運営等、通園バス運行に対し保護者の経済的負担軽減、病児病後児保育の実施に向けた検討 ・鮎貝地区地域交流商業施設整備と連携した福祉用地の活用検討 	子育て環境が充実したと思う住民満足度の増加（36%⇒40%）
	安心して子どもを産み育てられる環境	<ul style="list-style-type: none"> ・妊娠から出産、子育て期までの切れ目ない支援（不妊治療費用の助成、妊婦健康診査の実施、妊娠期の通院費の助成、未熟児養育医療費給付、子育て世代包括支援センターの運営等） 	出生数の増加（62人/年⇒70人/年）
	白鷹の子どもを育成	<ul style="list-style-type: none"> ・放課後児童健全育成事業の継続、学校施設整備事業（中規模改修等）、白鷹中学校体育館整備、スクールバスの継続、新入学児童へのランドセルの贈呈、青少年の国際交流、学校給食調理場設備の計画的修繕・更新、保護者の経済的負担軽減・栄養素充足率の向上 	子育て環境が充実したと思う住民満足度の増加（36.3⇒40.0）
2. 次世代の人材（財）育成	地域・人を知る教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の産業や文化等への理解を深める「ふるさと教育」などの地域課題の解決等を通じた探究的な学びなど、高等学校が地元市町村・企業等と連携する取組を推進、子どもたちを地域で育てる仕組みづくり、放課後子どもプラン等の推進 	成人式時アンケートの地元回帰志向の向上（61%⇒65%）
	質の高い教育を推進	<ul style="list-style-type: none"> ・本町独自の学びや生活の基本的習慣を定着させる「白鷹スタンダード」の推進 ・不適応等児童等へのカウンセリング、学校生活支援員の充実 ・英語教育の更なる推進、プログラミング教育等の情報教育の推進 	児童生徒の理解度（理解していると答えた児童生徒数の割合）の向上（不明⇒90%）
	中等教育等の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・荒砥高校をサポートする会との連携による同校の魅力化 ・対話する力など基盤的な力を確実に身に付けさせるとともに、高等学校段階で地域を知り、愛着を持つ機会を創出、白鷹専修高等学校への広域による継続支援、P R 	荒砥高校入学者定員1/2の人数の確保・維持（20人以上/年）
	次代の親の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・出会いの場の創出、婚活応援室、仲人活動の充実 ・ライフプランセミナー等の学習機会の確保 	婚活サポート委員会が関わる年間成婚数（2件/年⇒2件/年）
3. 文化・スポーツ等を核とした地域活性化	芸術文化、伝統芸能	<ul style="list-style-type: none"> ・芸術祭の開催等による芸術文化振興、伝統芸能の保存伝承の促進、文化財を活用した町の魅力づくり、史料等の整理、展示・公開等施設の整備 	芸術祭参加率の増（16.5%⇒18.0%）
	スポーツの推進	<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツ活動に参加する機会の創出、魅力あるスポーツ施設の充実（蚕桑紬パーク改修等）、スポーツイベントの積極的な開催（若鮎マラソン大会、町誕生記念駅伝競走大会等）、東京オリ・パラを契機としたホストタウン交流の推進 	町民一人当たり町内スポーツ施設利用回数の維持（6回/年・人）
	生涯学習推進	<ul style="list-style-type: none"> ・社会教育としての学習機会の創設、生涯学習としての自発的な学習活動に対する支援 ・町立図書館及び中央公民館の効果的な運営体制の整備 	町民一人当たり町立図書館利用回数の増加（0.7回/年⇒1.0回/年）
4. 新たな人の流れの形成	U I J ターンの推進	<ul style="list-style-type: none"> ・白鷹町ふるさと移住推進協議会による移住相談の継続実施、先輩移住者をコンシェルジュとした移住者目線の相談体制推進、移住者に対する経済的支援の拡充 	移住相談窓口経由した移住者数（13人/年⇒10人/年）
	交流推進	<ul style="list-style-type: none"> ・友好関係にある都市との交流、町版会員制交流サイトの創設、都市部公共施設での白鷹産材の活用可能性検討、賛同者によるクラウドファンディング促進、企業版ふるさと納税導入の検討 	縁のある市町村との交流者数の増加（2百人/年⇒3百人）
	起業・就業支援	<ul style="list-style-type: none"> ・就労環境の改善、早期離職者の防止、魅力ある企業の創出 ・人材の確保対策、若者定着奨学金返還の支援 	奨学金返還支援事業申請者数（1人/年⇒4人/年）
	地方創生の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・将来的な地方移住に向けた裾野を拡大するため、定住に至らないものの、特定の地域に継続的に多様な形で関わる「関係人口」を増加させていくための取組を推進 ・二地域居住・就業を推進、農泊や子供の農山漁村体験を体系的に促進、民間企業で働く人材の地方企業・地域への人材還流等を推進 	人口の社会減数の抑制（△91人/年⇒△24人/年） 若者移住定住支援交付金による支援数確保（28人/年⇒30人/年）

主な個別施策について③（地域資源を活かし、魅力と活力にあふれる「しごと」づくり）

施策の大綱	基本施策	個別施策	アウトカム（成果指標）
1. 白鷹らしい産業の振興	農業（経営体の育成・確保、スマート農業の実現）	・新規就農者の育成支援、スマート農業実現等による競争力強化、畜産経営競争力の強化支援、米政策改革の定着、農地中間管理機構中心の集積体制の確立、人・農地プランの実質化等による農地の集積・集約化の推進、有害鳥獣被害の軽減推進、ICT技術の活用可能性の検討	農業就業者一人当たりの農業所得額の増加（2.1百万円/1人年⇒4.0百万円/1人年）
	林業（成長産業化、新たな森林管理システムによる森林経営管理の集積・集約化）	・森林の境界明確化、路網整備や高性能林業機械の導入等推進、白鷹町6次産業化支援事業、新たな森林管理システムによる経営管理の集積・集約化、ICTによる木材の生産管理などスマート林業の推進、木材の建築物や非住宅等への利用拡大、効率的なサプライチェーンの構築	町内林業生産額（年間）の増加（過去7年の平均値比）（2%⇒10%）
	商工業（事業継承、適切な新陳代謝の促進）	・受注拡大の重点強化推進、受注拡大の支援補助の拡充、山形県事業承継ネットワークと連携した専門家派遣の支援、山形県事業引継ぎ支援センターと連携し、事業者と地域おこし協力隊員とのマッチングを促進するなど事業承継を支援	企業数の維持（381社⇒370社） 製造業出荷額@1社の維持（462百万円/年⇒430百万円/年） 小売業年間販売額の維持（9.1百万円⇒9.0百万円）
	食×観光	・新・観光交流推進計画に基づいた「日本の紅をつくる町」等の事業実施（紅花を観光資源とした各種取組）、町内観光拠点施設の周遊推進 ・食・各種体験・田舎暮らしを資源とした地域連携DMOの推進と関係者との連携強化、農泊の推進、インバウンド受入に対応した環境整備	年間観光入込客数の増加（384千人/年⇒403千人/年） 観光拠点施設での年間消費額の増（648百万円/年⇒680百万円/年）
2. 生産性向上に向けた環境整備	安心できる労働環境	・雇用者に対する働き方改革制度や国・県の補助金制度の周知、女性が働きやすい環境の整備、労働者の福利厚生等の充実支援、ワーク・ライフ・バランスの推進、経営者・管理職対象「トップセミナー」等の開催機会向上	「安心して働くことのできる環境」の満足度向上（13.4%⇒20.0%）
	産業人材の育成	・技術の高度化に対応できる人材の育成、各産業における従事者の育成確保 ・奨学金の返還支援、若者の回帰及びリーダー的人材確保の推進	技能検定特級合格者数の確保（0人/年⇒3人/年）
	新たな産業の創出	・商工会、金融機関との情報交換による起業家の発掘、創業支援事業計画に添った支援	創業数の増（1件/年⇒5件/年）
3. 稼げる産業の振興	若者が魅力を感じる産業づくり	・若者のスキルアップ育成、起業家の発掘・支援 ・地域における若者の雇用機会の創出を促進、雇用環境の是正への支援	若者の創業件数（1件⇒5件）
	豊かな資源を生かした特産品開発	・「SHIRATAKA RED商品」の商品化と販路・需要の拡大 ・安定価格で出荷ができる体制の確立 ・紅花文化を後世に繋ぐ視点を町民と共有し、地域ブランドと地域を活性化	日本の紅をつくる町事業による売上総額（13百万円/年⇒15百万円/年）
	6次産業化の推進	・外部専門委員会による分析や課題の抽出、戦略の策定、支援体制の構築 ・地域おこし協力隊や山形6次産業サポートセンタープランナー派遣の活用によるマッチング・販路開拓の検討、共同利用型の加工施設整備の検討 ・農林漁業と商工業の連携を通じた地方創生の推進、ジビエ利用の実現可能性の検討	農業就業者一人当たりの農業所得額の増加（2.1百万円/1人年⇒4.0百万円/1人年）

主な個別施策について④（地域の個性を磨き、「連携する（つながる）」まちづくり）

施策の大綱	基本施策	個別施策	アウトカム（成果指標）
「まち」「ひと」「しごと」 3側面をつなぐ取組	特性を生かしたそれぞれの地域づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニティセンターを核とした地域づくり ・地域づくり推進交付金による、地域の特色を活かした事業に対する支援 	「元気な地域づくりの推進」の町民満足度の増加(21.0%⇒30.0%)
	地域の担い手育成	<ul style="list-style-type: none"> ・各伝統工芸の後継者育成支援、後継者確保のための伝統工芸品の魅力のPR ・大学等インターンシップ受入等により、学生からの後継者の可能性を検討 ・地域おこし協力隊による起業への支援、地域おこし協力隊の定住支援 	新たな伝統工芸後継者の確保（0人/年⇒1人/年） 地域おこし協力隊の定住者数の増加(期間中累計)（3人⇒12人）
	コンパクト・プラス・ネットワーク	<ul style="list-style-type: none"> ・立地適正化計画の策定、小さな拠点の機能強化 ・鮎貝地域への商業施設・子育て交流スペース整備、良好な住環境の整備 	商業施設利用者数の増加（0人/年⇒182千人/年）
	広域連携（定住自立圏等）	<ul style="list-style-type: none"> ・置賜定住自立圏共生ビジョンの推進 ・村山圏との広域連携の検討 ・地域連携DMO「やまがたアルカディア観光局」の取組支援 	総人口に対する圏域の人口割合の維持（0.17%⇒0.15%） DMO旅行業等売上額の増加（11,817千円/年⇒71,502千円/年）
基本構想の推進に向けて	1. 情報の共有と町民主体のまちづくり	<ul style="list-style-type: none"> ・データを積極的に活用する行政サービスの構築に向け、EBPMを着実に推進 ・自助・共助・公助の役割分担の見直し、働き方改革の推進を通じ、複雑高度化する行政課題に的確に対応 	「情報の共有と町民主体のまちづくり」満足度の向上（31.6%⇒35%）
	2. 民間活力の活用と官民連携による新たな取組	<ul style="list-style-type: none"> ・業務の民間委託の推進、委託団体等の組織力強化の推進、就農支援事例など、他の官民連携による取組事例の調査・研究、PPP/PFI導入の余地の検討 	PPP/PFI手法導入を優先的に検討する仕組みの構築（0件⇒1件）
	3. 国、県、関係市町との連携	<ul style="list-style-type: none"> ・関係機関との人事交流等による資質向上や情報の収集 	—

第6次総合計画前期基本計画の「重点4分野」と「重点プロジェクト」について（案）

- 令和2年度からスタートする第6次白鷹町総合計画前期基本計画では、将来像である「人、そして地域がつながり 輝き続ける潤いのまち」の実現に向け、「人づくり」「産業・経済」「定住化」「地域力」の重点4分野に注力する。
- 重点4分野の主要施策については、個々につながり循環する6つの重点プロジェクトとして位置付け推進。将来人口の確保に向け、人口減少緊急対策に集束する。
- 新荒砥橋が完成することにより、全町が継ぎ目なく融和。今後の幹線道路網の整備を視野に、商業施設機能、子ども交流スペース機能を付加するなど、全町一体的・面的整備することで、本町版「職住育近接」を実現。
- これら施策を重点的に推進するためには、選択と集中による効率的な施策の展開が重要。

- ・地域おこし協力隊の起業・定住支援
- ・地域の担い手育成（伝統芸能、大学インターン等）
- ・高等学校で地域を知り、愛着を持つ機会の創出
- ・ふるさと教育等、高等学校が企業等と連携する取組の推進

- ・町外者の住宅取得支援の推進
- ・空き地バンク等空き家の住居への活用
- ・空家対策ネットワーク協議会と連携した移住希望者とのマッチング
- ・友好関係にある都市との交流促進
- ・町版会員制交流サイトの創設
- ・企業版ふるさと納税導入の検討

